Mizoguchi のぶつぶつ　ver.②

世界に羽ばたけ!! ＆ 日本人らしく育て!!

そして、何より夢を語ろう!!

Australian Trip 1st student meeting kicked off for 2nd-year students!! (Apr. 9th)

８月に行うオーストラリア海外研修に向けて、第１回目の生徒集会を行いました。主な内容は、アプリケーションフォームの作成についてでした。ドキドキワクワクした雰囲気の中で、生徒たちはそれぞれ自己紹介や趣味について考えました。私からは「Give and Take」の話をしました。ホストファミリーと生活する上で、受け身で何かを「もらう=take」のを待つだけではなく、自分自身や日本について積極的に話したり紹介したりして、相手に「与える=give」姿勢を持つことの大切さについて伝えました。自ら仕掛けてたくさんの学びを得て下さい!!

Mizoguchi's Talk for 1st-year students, the freshman!! (Apr. 9th)

１年生向けに国際探求学科とは！！という名の学科長の話を行いました。生徒は緊張しながらも、これからの3 年間でなりたい自分の姿、なぜ国探に入学したのかなどについて意見交換を行いました。また、私からは今後の日本の少子化について知り、海外に目を向けることの必要性について話しました。国探で学ぶことの重要性について深く考えるきっかけとなれば幸いです。

Prof. Nomiura from Konan gave us special lecture for 2nd-year Kokutan students!! (Apr. 17th)

予約の取れない教授、野村先生から「伝わる英語の話し方」という題目で１年越しの特別講義を受けました。私が企画しますが、誰よりも自分が楽しみにしていたイベントです。予想通り濃い内容の講義となり、生徒は大満足でした!!次回は 6 月に 1 年生を対象に講義をして頂けます。お楽しみに!!

#アロハポーズ

私がたまーにやるアロハポーズの紹介です。このポーズには２種類あり、写真左が「シャカサイン」。右が「ハングルース」です。手の形は同じで、親指と小指を立て、他の指は握った手の形を作りますが、その意味と用途、さらには手の向きによって異なります。シャカサインは相手に手の甲を見せる形で行います。ハワイでは日常的に使われていて「ありがとう」、「元気でね」、「頑張ろう」などの意味を持つとされています。また、「アロハスピリット」を象徴し、ハワイのリラックスしたライフスタイルを表すものとも言われています。一方、ハングルースは親指と小指を立て、他の指は握った手の形を、手のひらを相手に向けて行います。「こんにちは」、「ありがとう」、「またね」、「気楽にいこう」などの意味があり、特にサーファーカルチャーで広く使われています。シャカサインとは違い、手のひらを相手に向けるのがハングルースと言われています。アロハーと言いながら使うのが多いです。ハワイではこれらのジェスチャーは感情や気持ちを表現するため、コミ

ュニケーションツールとして日常生活でよく使われます。ちなみに、アロハー(=こんにちは、ありがとうなど)は非常に多くの意味があります。私にとってハワイは大変縁が深い場所です。プロポーズの地♡、結婚式兼ハネムーンの地、初めて行った海外旅行の地、サーフィン発祥の地など。今は円安＆日本経済の停滞の影響もあり行きたくても行けないので悲しいです。

Travel & Journey

私の海外経験を皆に知らせようと思う。私の海外体験は、

1. 旅行 2. 留学 3. ボランティア 4. 旅 5. サーフィン　の大きく 5 つに分けられます。第 2 回目回はボランティア!!　国際協力の分野!!

Mizoguchi × カンボジア

　カンボジア：東南アジアの一国。赤道に近いため、真夏は 40℃近くまで到達する灼熱の地。世界遺産のアンコールワットで有名な国ですが、つい 50 年ほど前までポルポト政権(独裁政権)が国の人口の約半分を虐殺した悲惨な過去を持つ国でまだまだ貧しい国。その国へ大学 2 回生 20 歳の時、NPO（分かり易く言えば”ボランティア”）に属していた私は、その NPO を通じてカンボジアへ学校建設のお手伝いに行きました。 首都のプノンペンから 1 時間くらいしたら車で走るとそこには、何もない緑いっぱいの草原が広がります。そんな何もない草原をさらに奥地へバスで 2 時間くらい進んだところにある 100 名ほどが暮らす小さな村へ。水は 1 時間ほどかけて汲むに行かなければいけないような場所です。その村には日本で見るような高いビルやショッピングセンターやラウンドワン etc..もありませんが、家族の絆や村全体が家族のような温かい雰囲気が感じられる場所が存在していました。「自分だけが良ければ」という発想はなく、困ったときには助け合い、隣の家のこどもが悪いことをすると、自分の子供ではない親たちがその子供を叱りつけるといった環境がありました。親は子供達と多くの時間を一緒に過ごし、親の仕事を手伝うまだ幼い子供達。人と人が互いを思いやり、支え合って生きていくそんな「心の豊かさ」を実感した場所でした。また、学校数が足りていないため、まともに教育を受けることのできない環境下ですが、たくましく生きているエネルギーを感じ取ってきました。我々が携わった学校建設がこの村の発展に貢献してくれることを願っています。約 1 週間の活動が終わり、お別れの時。村じゅうのおばぁちゃん達が顔をしわくちゃにして、泣きながら何度も「オークン＝ありがとうの意」と手を合わせて、我々を見送ってくれました。あの顔は私の脳裏に焼き付いて離れません。自分が何か辛く困難なことにぶち当たったときには、このカンボジア小学校建設の記憶が脳裏をよぎります。そのため、大概のことは乗り越えていけます。自身の深い部分に、この活動の経験が存在し続けているのだと思います。